

第34回新技術・新工法発表会に関するアンケート調査結果

I. 特に興味があった発表課題(回答者:34人)

| 発表課題 | 人数 | (%) | 興味があった内容 |
|------------------------|----|-----|--|
| ①新しい斜面防災技術「ESネット工法」の紹介 | 24 | 71 | <ul style="list-style-type: none"> ・現場としてコスト的に活用できると思われる。 ・部材の軽量化、工夫すれば工期短縮がもっとできそうである。 ・施工性の良さ、自然との共生。 ・景観に配慮した工法であった。 |
| ②CAT大型発電機の活用 | 14 | 41 | <ul style="list-style-type: none"> ・震災等の非常時に、即対応できるから。 ・計画停電が必要な工事対応ができるところ。 ・人が本当に困ったときに活用できそうだから。 ・国内にない。、供給の速さ、省スペース。 |
| ③安全管理サイガード | 13 | 38 | <ul style="list-style-type: none"> ・非常に便利そう、使用してみたい。 ・ソフトの内容が色々とバリエーション豊富なところ。 ・書類の共有化と簡素化。 ・ソフトで安全管理の項目があることがめずらしいから。 ・安全管理をデータにて管理し、作業の効率化ができそう。 ・安全管理について一元管理ができるところ。 ・社内での安全管理資料の整理や各現場への周知に利用できそうであった。 |
| ④ノップキャリイ工法 | 4 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全性重視。 ・作業性、安全、工程、品質面において、非常に有効な工法である。 ・工期短縮。 |

II. 会場の環境について

| 会場の環境 | 人数 | (%) | 意見 |
|-------|----|-----|--|
| 良い | 18 | 35 | |
| 普通 | 29 | 57 | |
| 悪い | 4 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い。・プロジェクターが小さい。 ・広島駅より近くの会場にしてほしい。 |
| 計 | 51 | 100 | |

Ⅲ. 技術発表全体について

| 発表課題 | 内容の理解について | | | 発表時間について | | |
|------------------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-----------|
| | よく理解できた | ほぼ理解できた | 出来なかった | 長い | 丁度良い | 短い |
| ①新しい斜面防災技術「ESネット工法」の紹介 | (33%) 16 | (63%) 35 | (4%) 1 | (11%) 5 | (89%) 40 | (0%) 0 |
| ②CAT大型発電機の活用 | (27%) 14 | (63%) 35 | (10%) 4 | (16%) 7 | (80%) 36 | (4%) 2 |
| ③安全管理サイガード | (40%) 12 | (53%) 35 | (7%) 3 | (9%) 4 | (82%) 37 | (9%) 4 |
| ④ノップキャリイ工法 | (10%) 9 | (50%) 33 | (40%) 7 | (5%) 2 | (90%) 39 | (5%) 2 |
| 計 | (26%) 51 | (61%) 138 | (13%) 15 | (10%) 18 | (85%) 152 | (5%) 8 |

Ⅳ. 映像発表について

| 発表課題 | 関心が持てた部分 |
|--|---|
| ①赤レンガ駅舎 保存・復原の軌跡(東京駅の内駅舎保存・復原工事総集編) | <ul style="list-style-type: none"> ・駅を共用しながらの工事、現存基礎を共用したままの免震化。 ・仮受け工法。 ・昔ながらの工法を用いて施工していたこと。伝統技術の再現。 ・保存と復原。文化財と現在技術の融合。 ・駅の機能を生かしつつ工事を実施する難しさを学べた。 ・総人員86万人をまとめ上げることは想像できないと感じた。 ・地下の施工。 ・大掛かりな工法と、非常に細かい仕事の積み重ねに技術力を感じる。 ・歴史的建造物の復原の大変さと、それを成し遂げる技術について関心が持てた。 |
| ②アルミニウム合金製ドーム屋根(テムドーム工法による日本最大級のアルミドーム屋根の施工) | <ul style="list-style-type: none"> ・接合部の工法。 ・足場の工夫、材料の軽量化の安全性向上。 ・手順がわかりやすかった。 ・軽量のアルミ屋根の施工。軽量部材による安全な作業。 ・人力での足場、ドームの建設が良かった。 ・足場として利用の価値を感じるが、作業が人力に頼りすぎて、安全性については心配である。 ・合理的な骨組み構造であること。 ・軽量アルミの柱の組み立てにクレーンが不要、作業の効率化とコスト縮減が可能。 |

V. 今後の業務に活かせるか。

| | | |
|-----------|----|------|
| 活かせる | 26 | 53% |
| 活かさない | 6 | 12% |
| どちらともいえない | 17 | 35% |
| 計 | 49 | 100% |

VI. 今後の発表会のあり方

Q-1 発表会の内容

| | | | |
|------------|----|------|---------|
| 安全・安心 | 18 | 22% | |
| コスト縮減 | 18 | 22% | |
| 環境 | 21 | 25% | |
| リサイクル補修・補強 | 10 | 12% | |
| IT(情報技術) | 15 | 18% | |
| その他 | 1 | 1% | ・機械設備関係 |
| 計(回答者) | 83 | 100% | |

Q-2 今後の発表会のあり方

- 1) 各発表時間の長さをもっと増やす。
- 2) 施工事例ばかりの発表が多くて、聞いていて面白くなく興味がわからない。
- 3) 難しいことかも知れないが、もう少し対象業種を絞り込んでの発表にしてほしいと感じた。自分は舗装工メインであるため、今回の内容ではヒントとなる発表は「サイガード」しがなく、ヒントとなるかと思ひ他の工法等も聞かせていただいたが、あまり参考にならなかったため。
- 4) 今回のビデオが非常に良かった。
- 5) 環境対策に関する新たな技術があればご教授いただきたい。
- 6) 最近の建設業界の事情で新工法を官民で開発することが減っているためか、目を見張るような技術発表に感じられなかった。もっと新たな技術もしくは身近に利用できるものを知りたい。東京での建設機械施工協会の行事に参加してきていたが、少し温度差を感じる。
- 7) 写真を使用している資料が多いのに白黒印刷では読みづらい。
- 8) 最近の情報化施工の発表(開発中の内容や施工実績のあるものでも可)。
- 9) 新技術・新工法発表会の現地研修にも参加してみたい。
- 10) 書類の充実(時間内で理解するのは難しい)。
- 11) 映像発表は分かりやすく良かった。

12)技術発表はビデオを組み合わせたほうが分かりやすかったと思います。

VII. その他 協会活動についての意見・要望

1)ぜひ今後もこのような機会は行ってほしいと思います。他業種でもヒントになるものがあるかもしれないので、自分としてはこれからも参加したいと思います。

2)CPDS対応の講習をもっと行ってほしい。

3)新たな技術の良い点だけでなく、悪い点も発表してほしい。

VIII. 勤務先の業種

| | | |
|------------|----|------|
| 製造業 | 4 | 8% |
| 建設業 | 36 | 76% |
| 商事会社 | 1 | 2% |
| サービス業 | 2 | 4% |
| リース・レンタル業 | 0 | 0% |
| 団体・コンサルタント | 4 | 8% |
| 官公庁 | 1 | 2% |
| その他 | 0 | 0% |
| 計 | 48 | 100% |